

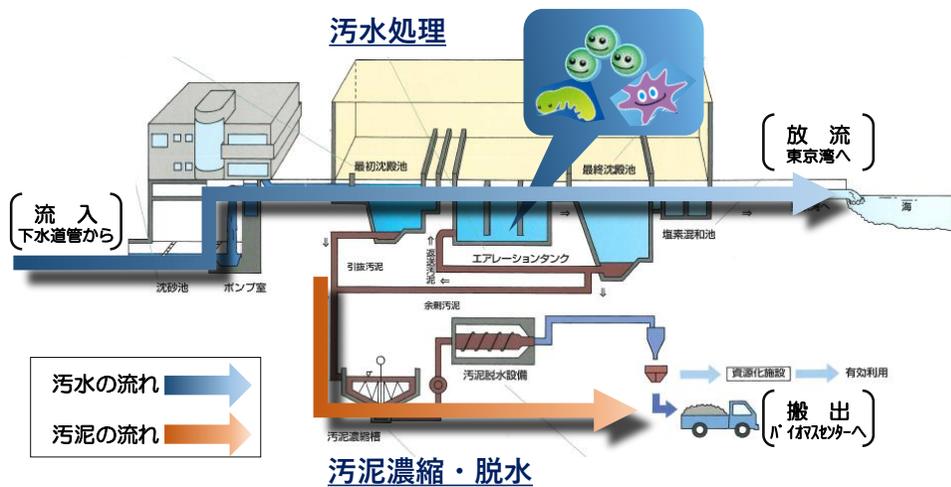
おしえて！下水道

～皆さんの生活を支える三浦市公共下水道についてご案内～

公共下水道は、皆様の健康や安全・安心な生活を維持するために、24時間365日稼働している重要な公共インフラです。私たちは、これら下水道関連施設を長く、賢く使い次世代へと確実に引き継ぐため様々な取組を実施しております。皆様に、これらの取組を知って頂くため、公共下水道事業の経営状況などをお伝えしていきます。

東部浄化センターについて

東部浄化センターは、京浜急行電鉄の沿線開発や人口増に伴う汚水処理の要請を受け、平成10年より汚水処理を開始しました。同施設は、標準活性汚泥法という微生物の力を借りた汚水処理方式を主とし、環境への影響が十分に和らいだ汚水は、東京湾へと放流されます。処理過程では、どうしても微生物たちの死骸等(汚泥)が残ってしまいますが、これらは体積を小さくした後に搬出され、三浦バイオマスセンターにて処理されています。また、これら処理施設運転や放流水質の監視は、現在、民間委託にて実施しています。



東部浄化センターの汚水・汚泥処理工程

東部浄化センターの運転・維持管理について

東部浄化センターでは、下水道管内の汚水を揚水するためのポンプや、微生物たちに酸素を供給するための機械等が常時稼働しています。これら施設の稼働に必要な電気代、運転・維持管理費が毎年かかることに加え、機械類の老朽化に伴う更新工事費等が大幅に生じる見込みです。東部浄化センターを次世代へと確実に引き継ぐためには、下水道使用料等でこれら費用をまかなう必要があるものの、現状では一部不足しているという課題があります。

電気代
0.2億円

管理委託費
0.9億円

汚泥処理費等
0.4億円

合計 1.5億円

東部浄化センターの運転・維持管理にかかる主な費用(令和元年度決算)

公共下水道関連施設の主な機械



自然流下が困難な逆勾配の地形に設置し、汚水を圧送します。



地下深くに埋設された下水道管内の汚水を場内へと揚水します。



微生物の代謝に必要な酸素等を汚水タンクへと送ります。



汚泥中の水分を絞り取り、運搬コストを節約します。